

令和2年度わかやま子ども学総合研究センター活動報告

わかやま子ども学総合研究センター センター長 桑原 義登

はじめに

令和元年度に和歌山信愛大学新設に伴い、和歌山県及び和歌山市の行政機関をはじめ、多くの皆様の支援を得てわかやま子ども学総合研究センターが設立しました。初年度は組織の位置づけや設立記念シンポジウム開催に向けて大変忙しい思いをしましたが、今年度はその路線に沿った活動を進めさせていただいています。

わかやま子ども学総合研究センターの主な役割として、①当センターの存在を地域の方々に知ってもらい活用してもらえるように啓発活動を続けていくこと、②各教員の専門性を活かした研究・実践活動を地域に役立てていくこと、③関係機関や保護者等からの相談に応じて専門的な支援を行うこと、④各教員の専門性を活かして講演会や研修会での講演や助言活動を行うこと、⑤学生への研究支援や研究活動への参加促進を行うこと、⑥特別研究会員の募集と特別研究会員の研究活動への支援を行うこと、及び⑦電子ジャーナルの発行等がありますので、それらについて報告をさせていただきたいと思います。

1. 啓発活動について

(1) シンポジウムの開催準備（新型コロナウイルス感染予防のために中止）

今年度も昨年度に気象警報により中止となった、児童虐待に関するシンポジウムの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症予防のためにまたもや断念せざるを得なくなりました。予定していたシンポジウムの概要を記録として残しておきたいと思えます。

令和2年度わかやま子ども学総合研究センターシンポジウム計画案（中止）

① シンポジウムの内容

テーマ「わかやまの児童虐待の現状と課題～子どもを取り巻く環境から見えてくるもの～」

基調講演 和歌山信愛大学わかやま子ども学総合研究センター長
シンポジスト

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 弁護士

和歌山市こども総合支援センター

和歌山市内 保育所

和歌山県立医科大学副学長・保健看護学部長

コーディネーター

和歌山信愛大学わかやま子ども学総合研究センター長

② 日時 令和2年9月26日 土曜日 午後13:30～16:00

- ③ 会場 和歌山信愛女子短期大学セシリアホール
(和歌山信愛女子短期大学のオープンキャンパスと同時開催)
- ④ 共催 和歌山信愛大学・和歌山信愛女子短期大学
- ⑤ 後援予定 和歌山県 和歌山市 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会

(2) わかやま子ども学総合研究センタージャーナル創刊号の配付

学長挨拶、和歌山県知事・和歌山市長・和歌山県教育長・和歌山市教育長からのご祝辞、当センターの役割と展望、警報発令により中止となった開設記念シンポジウムの概要とシンポジストの発表予定内容、論文5編、及び関係資料による全94ページの創刊号を200部発刊して、下記の関係機関等に配付しました。配付方法として県内の機関等にはできるだけ持参して当センターの説明をしてお渡しするようにしました。

① 郵送による発送先

法人関係 10 (ショファイユの幼きイエズス修道会本部・修道院、関連教育機関図書館等)
国会図書館 2

② 行政等の関係機関 40

和歌山県関係 (文化学術課・子ども未来課・障害福祉課等・児童相談所3) 10

和歌山県教育委員会 (義務教育課・県立学校教育課・生涯学習課・教育センター学びの丘・図書館) 5

③ 和歌山市 (市長公室・子ども未来福祉課・こども総合支援センター) 5

和歌山市教育委員会 (教育委員会・子ども教育センター・図書館) 5

市町村 (主に子ども福祉関係部署) 15

④ 近隣大学関係 10

⑤ 保育・教育実習先・将来の就職先の福祉・教育機関 40

実習の依頼や巡回指導の時に持参する。

児童福祉施設 (乳児院・児童養護施設・児童自立生活援助事業施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設・児童家庭支援センター) 10

幼稚園・小学校・保育所・認定子ども園等 30

⑥ 祝辞等をいただいた方々 5

学長、和歌山県知事・和歌山市長・和歌山県教育長・和歌山市教育長

⑦ 投稿者・シンポジスト等 10

⑧ 本学教職員 35

(3) チラシの配付による啓発

以下の機会を活用してジャーナルの冊子と組み合わせてチラシを配布して、「相談への対応」、「講師派遣」、「特別研究会員の募集」など、当センターの役割を説明させていただきました。

- ① 幼稚園実習での巡回指導
- ② 本学教員による講演や研修会
- ③ 児童福祉施設等関係機関訪問
- ④ 行政関係機関（県庁、教育委員会、市町村）訪問
- ⑤ 教員が委員委嘱等されている会議等

2. 研究・実践活動

本学教員の研修会等への講師派遣や委員委嘱などによる業績を記載させていただきます。報告いただいたのは一部の教員であります。他にも教育・保育の各専門分野の教員がいますので講演や助言等の依頼をお受けしていきたいと思います。参考にいただければ幸いです。

令和2年度講師派遣等の活動報告

年月日	教員名	派遣先・依頼先	内 容 等	対 象
R2.9.16	村上凡子	大阪府大東市立三箇小学校	「総合的な学習の時間」研究授業 指導助言者（講師）	教職員 40 人
R2.10.4	村上凡子	和歌山県子ども未来課 情報交流センターBig-U	令和2年度保育士等キャリアアップ研修 テーマ「障害児保育①」	保育士等 40 人
R2.10.18	村上凡子	和歌山県子ども未来課和歌山市中央コミュニティセンター	令和2年度保育士等キャリアアップ研修 テーマ「障害児保育①」	保育士等 60 人
R2.11.26	村上凡子	大阪府大東市立三箇小学校	「特別支援教育」の分野の校内研修会 講師 テーマ「障がい理解と対応」	教職員 40 人
R3.1.26	村上凡子	放送大学和歌山学習センター	「出会いの心理学—自分も相手も尊重する円滑な対人関係をめざして—」学習会講師	受講生 10 人
R2.7.1	小林康宏	和歌山県東牟婁郡太地町教育研究会教育講演会	講演;演題「見方・考え方を育て働かせる授業づくり」	教職員 50 人
R2.7.5	小林康宏	和歌山県紀ノ國教勉会	講演;演題「見方・考え方を働かせた授業のポイント」	教職員 10 人
R2.7.8	小林康宏	和歌山市立安原小学校	講演;演題「言葉による見方・考え方を育て働かせる文学的教材の授業」	教職員 30 人
R2.8.19	小林康宏	島根県出雲市立灘分小学校	講演;演題「見方・考え方を育て働かせる授業-説明文編-」	教職員 30 人
R2.8.31	小林康宏	和歌山県 小学校・中学校国語科授業研究会第2回研究会	講演;演題「見方・考え方を育て働かせる授業-説明文編-」	教職員 20 人

R2.9.2	小林康宏	和歌山県東牟婁郡太地町立太地小学校	「どうぶつ園のじゅうい」(光村小 2)研究授業指導・助言	教職員 10 人
R2.9.9	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「世界一美しいぼくの村」(東書 4 下)の教材研究助言	教職員 5 人
R2.9.15	小林康宏	橋本市立学文路小学校	三年とうげ」(光村 3 下)の教材研究助言	教職員 15 人
R2.9.17	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「ニャーゴ」(東書 2 上)の教材研究助言	教職員 5 人
R2.9.24	小林康宏	愛知県稲沢市立稲沢北小学校	講演;演題「見方・考え方を育て働かせる国語科授業」	教職員 30 人
R2.9.30	小林康宏	大阪府豊中市立豊島西小学校	講演;演題「読みの授業における『書く』指導のポイント」	教職員 30 人
R2.10.1	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「モチモチの木」(東書 3 下)の教材研究助言	教職員 5 人
R2.10.2	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「ごんぎつね」(東書 4 下)の教材研究助言	教職員 5 人
R2.10.7	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「ニャーゴ」(東書小 2)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.10.9	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「ごんぎつね」(東書 4 下)「ヒロシマのうた」(東書 6)の教材研究助言	教職員 10 人
R2.10.13	小林康宏	橋本市立学文路小学校	「たずねびと」(光村 5)の教材研究助言	教職員 15 人
R2.10.20	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「ごんぎつね」「ヒロシマのうた」(以上東書)の教材研究助言	教職員 10 人
R2.10.21	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「モチモチの木」(東書小 3)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.10.23	小林康宏	和歌山市立高松小学校	「和の文化を受けつぐ」(東書小 5)授業指導・助言	教職員 2 人
R2.10.28	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「ごんぎつね」(東書小 4)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.10.29	小林康宏	橋本市立学文路小学校	「三年とうげ」(光村 3 下)の教材研究助言	教職員 15 人
R2.10.30	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「世界一美しいぼくの村」「ヒロシマのうた」(以上東書)の教材研究助	教職員 10 人
R2.11.4	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「注文の多い料理店」(東書 4 下)の教材研究助言	教職員 5 人
R2.11.6	小林康宏	和歌山県 小学校・中学校国語科授業研究会第 3 回研究会	「すがたを変える大豆」(光村小 3 下)研究授業指導・助言	教職員 20 人
R2.11.10	小林康宏	和歌山県 東牟婁地方中学校国語科勉強会	講演;演題「『言葉による見方・考え方』を働かせるスイッチ発問」	教職員 40 人

R2.11.11	小林康宏	和歌山市立安原小学校	「ヒロシマのうた」(東書小 6)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.11.17	小林康宏	和歌山県西牟婁郡白浜町立白浜第二小学校	「たずねびと」(光村小 5)研究授業指導・助言	教職員 20 人
R2.11.18	小林康宏	和歌山市立太田小学校	「注文の多い料理店」(東書小 5)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.11.19	小林康宏	和歌山市立高松小学校	「古文に親しむ」(東書小 5)授業指導・助言	教職員 2 人
R2.11.25	小林康宏	和歌山県東牟婁郡太地町教育研究会研究発表会	講演;演題『「付けたい力」を付けるための授業づくりのポイント」	教職員 50 人
R2.11.27	小林康宏	橋本市立学文路小学校	「三年とうげ」(光村小 3)授業指導・助言	教職員 15 人
R2.11.29	小林康宏	和歌山県紀ノ國教勉会	講演;演題「説明的文章において『言葉による見方・考え方』を育て、働かせる授業づくり」	教職員 10 人
R2.12.2	小林康宏	大阪府豊中市立豊島西小学校	「ごんぎつね」教材研究指導・助言	教職員 3 人
R2.12.4	小林康宏	和歌山市立河北中学校	「作られた『物語』を超えて」(光村 3)授業指導・助言	教職員 5 人
R2.12.5	小林康宏	第 72 回きのくに国語の会	「おとうとねずみチロ」授業指導・助言	教職員 20 人
R2.12.9	小林康宏	大阪府豊中市立豊島西小学校	「ごんぎつね」研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.12.10	小林康宏	和歌山県総合教育センター学びの丘	講演;演題「新学習指導要領の趣旨を踏まえた『言葉による見方・考え方』を働かせ、育てる国語科の授業づくり・発問づくり」	教職員 70 人
R2.12.16	小林康宏	大阪府豊中市立豊島西小学校	「和の文化を受けつぐ」(東書 5)研究授業指導・助言	教職員 30 人
R2.12.18	小林康宏	和歌山市立高松小学校	「大造じいさんとガン」(東書 5)授業指導・助言	教職員 2 人
R3.1.13	小林康宏	和歌山市立藤戸台小学校	『言葉による見方・考え方』を働かせ、育てる国語科の授業づくり・発問づくり=文学的教材編=	教職員 50 人
R2.4.9~ R3.3.11 毎月第 2 木曜	桑原義登	和歌山県子ども・女性・障害者相談センター	和歌山県社会福祉審議会児童福祉専門分科会措置専門部会:被虐待児童の入所・退所に関する事例検討による審議及び施設内虐待等の審議	被虐待児童 社会的養護施設等
R2.4.20~ R.3.3.17	桑原義登	子どもシェルターるーも	居場所のない被虐待児童の保護支援活動 ①処遇会議:今年度入所児童 8 名の入口 出口会議、②スタッフへの処遇支援	入所児童 スタッフ等

			③毎月の運営会議と理事スタッフ会議等	
R2.4.23~ R3.3.25	桑原義登	和歌山子どもの虐待 防止協会	児童虐待の予防防止活動 ①月例運営会議 ②オレンジリボン運動啓発 YouTube の作成：社会的養護等の現場や パンダの子育て等 25 本作成 オレンジリボンツリーとオレンジビーム の設置 ③公開講座：虐待の淵を生き抜いて 島 田妙子氏 等	和歌山県民
R2.7.3	桑原義登	近畿農政局和歌山平 野農地防災事業所	職場のメンタルヘルス（ラインケア） 講義とグループワーク	事業所管理職 員 9 名
R2.6.10	桑原義登	和歌山県発達障害者 支援センターポラリス	新任職員研修 児童虐待への対応	ポラリス職員 8 名
R2.7.8	桑原義登	和歌山県発達障害者 支援センターポラリス	新任職員研修 不登校への取り組み	ポラリス職員 8 名
R2.7.21 R2.10.20	桑原義登	有田市教育委員会	有田市就学指導委員会委員として課題 を確認して個別児童の就学適性につい ての助言を行う。	有田市就学予 定児童及び在 籍児童
R2.7.25 R2.8.2	桑原義登	和歌山県子ども未来 課（田辺市と和歌山 市）	和歌山県子育て支援員研修「児童虐待と 社会的養護」	和歌山市約 100 名 田辺市 20 名
R2.7.28 R2.9.29 R3.1.26	桑原義登	紀の川市人権施策推 進懇話会	市民を対象に人権意識調査を行い紀の 川市人権施策方針を策定した。	懇話会委員等 約 20 名
R2.10.13 R2.10.13 R3.1.12	桑原義登	和歌山県教育委員会	学校における依存症対策有識者会議：座 長として有識者委員の意見を纏め依存 症予防教育リーフレットや教科の中 での学習用チェックシートの作成を行う。	委員 10 名 事務局・県関 係 15 名
R2.11.27 R3.2.12 R3.3.12	桑原義登	有田市	有田市保育所あり方委員会会長に任命 され、保育所の現状課題を検討して、適 正配置の意見を具申する。	委員 13 名
R2.11.22 R2.12.13	桑原義登	和歌山県子ども未来 課	令和 2 年度保育士等キャリアアップ研 修：「虐待予防・関係機関との連携・地域 資源の活用」講義とグループワーク	田辺市約 20 名、和歌山市 約 100 名
R2.11.28	桑原義登	和歌山大学岸和田サ テライト・社会人の ためのキャンパス	子ども・子育て家庭と現代社会の授業 の中で「社会的養護」について ZOOM で 講義を行う。13:00~17:00	社会人対象

R2.12.18 R3.2.24	桑原義登	岩出市子ども・子育て会議	会長として任命され、岩出市の課題や方向性についての検討を行う。	委員と事務局 約 20 名
R2.8.25 R3.2.25	森下順子	海南市ファミリー・サポート・センター	「子どもの心と体の発達」講師	養成講座 各約 10 名
R2.9.3	森下順子	阪南市ファミリー・サポートセンター	「子育ての現状と支援の実際」講師	協力会員養成講座 各役 15 名
R2.7.2 R2.9.17	森下順子	和歌山県教育庁義務教育局義務教育課	「保育実践を通じた研修会に係る事前保育検討会」指導助言	教職員 約 20 名
R2.7.21 R2.8.6 R2.8.27	森下順子	有田市	有田市における就学前児童の教育・保育アドバイザー	保育者、職員 約 15 名
R2.7.28	森下順子	和歌山県教育センター学びの丘	令和 2 年度幼稚園等新規採用教員研修会に係る園外研修③「幼稚園教育の基本」講師	幼稚園等に勤務する新規採用教員 約 34 名
R2.7.29	森下順子	(社福)一麦会第二こじか園	第 1 回保護者学習会「発達を見通した進路について考える～転園・就学に関して～」講師	保護者、保育者 約 30 名
R2.7.26 R2.8.2,	森下順子	和歌山県	和歌山県子育て支援員研修・基本研修「子ども・子育て家庭の現状」「保育の原理」講師	一般市民 約 100 名
R2.10.3 R2.10.4	森下順子	和歌山県	和歌山県子育て支援員研修・専門研修「乳幼児の生活と遊び」「乳幼児の発達と心理」「地域保育の環境整備」「安全の確保とリスクマネジメント」	一般市民 約 20 名
R2.8.5	森下順子	特定非営利活動法人 WAC わかやま	「こどもの発達に寄り添った保育について」	会員約 10 名
R2,10.13 (収録日)	森下順子	和歌山市教育員会	和歌山市家庭教育サポーター養成講座「子供が豊かに育つ親子の関係づくり」WEB 研修講師	一般市民
R2.10.15 R3.1.18	森下順子	特定非営利活動法人きのくに子ども NPO	令和 2 年度和歌山市ファミリー・サポート・センター養成講座「発達障がいのある子どもに理解と関わり方」	会員及び一般市民約 15 名
R2.10.30	森下順子	いわで・きのかわファミリーサポートセンター	子育て応援連続講座「発達課題・自閉症スペクトラムについて」	会員及び一般市民約 15 名
R2.10.25 R2.11.3	森下順子	和歌山県福祉保健部福祉保健政策局子ども未来課	令和 2 年度保育士等キャリアアップ研修「乳児保育の環境」「乳児への適切な関わりについて」講師	保育士等約 100 名

R2.9.19 R2.10.24	森下順子	和歌山県福祉保健部 福祉保健政策局子ども未来課	令和 2 年度保育士等キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」講師	保育士等約 100 名
R2.12.1	森下順子	御坊市ファミリー・サポート・センター『そらまめサポート』	子育て連続応援講座「発達課題・自閉症スペクトラムについて」講師	会員及び一般 市民約 15 名
R3.1.8	森下順子	和歌山県中紀ブロック公立幼稚園・こども園教育研究会	「子どもたちの主体性を育む保育について」講師	公立幼稚園教諭 28 名
R2.12.2	小田真弓	西脇ブロック人権教育研究会	子どもを信じるってどういうこと？ こどもにおとながかかわるときは～遠い着地点を探しながら～	幼稚園・小学校・中学校 教職員 130 名

3. 相談援助活動

児童福祉施設から発達障害等の相談を数例受けていますが、子どもに関する外部からの相談は少ない状況にあります。桑原は施設等の臨床心理士 3 名のスーパーヴァイズによる事例検討などを毎月 1 回 1 時間 30 分の設定でおこなっています。

学校・幼稚園・保育所等の関係機関からの個別的な相談もお受けしますので活用いただきたいと思います。

4. 特別研究会員

特別研究会員は名簿の通り 11 名在籍しており、多くの方は来年度も継続を希望しておられます。特別研究会員のご了解を得て名簿を掲載させていただきます。

和歌山こども学総合研究センター特別研究会員名簿

氏 名	所 属	担当教員	備考(研究領域)
石井 巧	滋賀県立草津養護学校高等部 臨時講師	秋吉 博之	理科教育
岩田 智和	和歌山県立仙溪学園（児童自立支援施設）	桑原 義登	臨床心理士：性加害および性被害、性教育
戎嶋 恵子	社会福祉法人伏虎学園つつじが丘学舎 里親支援専門員	森下 順子	子育てや里親支援
五明 優介	和歌山工業高等専門学校スクールカウンセラー	桑原 義登	臨床心理士：スクールカウンセラー
北村 凌	和歌山市貴志中学校	小林 康宏	国語教育
植田 喜樹	有田市役所市民福祉部福祉相談室	桑原 義登	臨床心理士：子育て支援

岡 定紀	おのみなとこども食堂の会理事	江口 怜	子ども食堂：機関連携
永井 重輝	白山市立松任小学校	小林 康宏	国語教育
飯塚 秀美	大東市立三箇小学校	村上 凡子	小学校新学習要領に対応した学習評価
原 康行	兵庫教育大学大学院 博士課程	桑原 義登	保育所等の特別支援や相談
小栗 幸 樹	和歌山市立藤戸台小学校	小林 康宏	国語教育

5. 関係機関と連携した学生の活動

今後、様々な関係機関との連携した研究活動を探っていく必要がありますが、和歌山市との提携の中で隣接する和歌山市のこども総合支援センターとの連携を優先して検討してきました。こども総合支援センターからは様々な要望をいただいております。今後とも双方で協議しながら実現していきたいと考えています。中でも不登校児童・生徒が通う「ふれあい教室」との連携した活動を紹介しておきます。

ふれあい教室の活動の場所として、本学の運動場や体育館を活用していただいておりますが、授業に空きがある学生が適宜参加する方向で動いています。

また、次のような計画（本学運営会議に提出した資料）を立てて学生にはボランティアとして参加してもらっています。学生には子どもたちとの交流を通して、具体的な問題意識を持って授業にも取り組んでいるように思います。

和歌山市こども総合支援センターと本学との連携に関する提案

子ども学総合研究センター

1. こども総合支援センターとふれあい教室について

こども総合支援センターは、和歌山市教育委員会学校教育課学校教育課の機関であり、ふれあい教室が運営されている。ふれあい教室（以下、教室）とは、不登校児童生徒を対象とした教育支援センター（適応指導教室）である。^{註1}「教室」には、学びや活動の場所として学校ではなくこの教室を選択している小・中学生が通っている。子どもたちにとっては、多様な面で学校以外の居場所として機能している。現在、登録している人数は小・中学生合わせて約 50 名で、2/3 が中学生である。1 日の時間割は構造化されている。その枠組みの中で子どもたちは自己決定、自己選択をし活動に参加している。

8 月 25 日（火）に行われた担当職員の方との協議を通して、以下のような取り組みの実現に向けて本学としての連携した活動を推進していくことで合意に至った。

2. 当面の連携事業 「ふれあい教室」の活動にボランティアとして参加

2.1 ボランティアに期待される役割

利用する子どもたちにとって少し年上で親しみやすい立場で接し、話し相手になること、活動を共に楽しむこと、学習の手助けなどの役割が期待されている。

2.2 具体的な活動の仕方

- ・2020 年度後期は、本学の昼休みの時間を中心に訪問する。
- ・2021 年度から、主に 1 期生が曜日と時間帯を固定した活動を開始する。
- ・事前に学生に広報し、ボランティアとして登録を希望する学生を募集する。登録者一覧表を作成し、センターに届ける。
- ・同一時間帯に訪問、活動する人数の上限は 2 名 人数調整の実務に関しては今後協議の上決定

2.3 活動の位置づけ

1 年生：「ボランティア論」のボランティア活動としての位置づけ

2 年生：ボランティア実習として位置付けられるためには、承認が必要となる。

申請者・申請機関は教学センター

3 今後の連携事業案 コロナ禍の状況次第で開始時期は未定

- 本学の行事に利用者を招待する 学園祭の舞台発表の出演者として参加など
- スポーツ活動の際に体育館を利用してもらう
- 担当職員の方を本学の授業のゲスト講師として招聘する
- 「教室」における本学学生によるプログラムの実施
- 卒業研究のフィールド

註 1) 文部科学省「教育支援センター（適応指導教室）に関する実態調査」結果 2019 年 5 月 13 日付

「教育支援センター（適応指導教室）」（以下、教育支援センターとする。）とは、不登校児童生徒等に対する指導を行うために（中略）学校以外の場所や学校の余裕教室等において、学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織である（文部科学省，2019）。

6. ジャーナル第 2 号の発行

今年度は多くの特別研究会員の皆様の投稿により現場の活動の研究や紹介が多く載せられています。大学として現場の状況や課題を確認しながら学生への教育に生かしていければ良いと考えています。本学のホームページにも掲載する予定であります。

7. その他の活動

(1) 季刊誌への投稿

最近の課題となっている子どもの問題について、桑原がセンター長の肩書きで季刊誌みち（発行所オフィス・コカワ）へ定期的に掲載しています。今年度の掲載は下記の通りであ

り、本学のホームページにも載せています。「子どもを理解する視点」や「いじめの事象から見えてくるもの」などの過去の出版分についてもご確認いただければ幸いです。

- ① 桑原義登(2020 年 4 月) 「最近の社会情勢から考える子どもの諸課題Ⅲ. 不登校の事象から見えてくるもの」『季刊誌み・ち』第 37 号 pp.2-11
- ② 桑原義登 (2020 年 8 月) 「児童虐待の現状と課題について考える I. 児童虐待はなぜ問題となるのか」『季刊誌み・ち』第 38 号 pp.2-9
- ③ 桑原義登 (2021 年 2 月)「児童虐待の現状と課題について考える II. 児童虐待増加の社会的背景」『季刊誌み・ち』第 39 号 pp.14-23

(2) 報道番組への出演

報道機関から出演依頼があり、桑原が当センター長としての肩書きで下記の番組に出演しました。

- ① 2020 年 10 月 22 日 18:30～ NHK 和歌山放送局ニュース番組 ギュギュッとわかやま 文部科学省及び和歌山県教育委員会が公表した児童生徒の問題行動等の調査結果について、特にいじめや不登校の増加に対する意見とコロナウイルス関連についてのコメント出演
- ② 2020 年 11 月 12 日 18:30～NHK 和歌山放送局ニュース番組 ギュギュッとわかやま 児童虐待防止運動の「オレンジリボン和歌山 YouTube」の取り組みの紹介の中で児童虐待等についてのコメント出演
- ③ 2020 年 12 月 20 日 8:00～8:20 和歌山放送ラジオ オピニオントーク わかやま子ども学総合研究センターの紹介とコロナウイルス感染症にまつわる教育の課題について、寺門秀介アナウンサーとの対談
- ④ 2020 年 12 月 27 日 8:00～8:20 和歌山放送ラジオ オピニオントーク 最近の子どもの問題や課題について及び高等学校統合の課題について、寺門秀介アナウンサーとの対談

又、森下順子准教授が 2020 年 4 月から エフエムワカヤマの「オレンジリボンを知ろう」の児童虐待予防啓発番組にレギュラー出演しています。主に子育て支援を中心に和歌山県立医科大学副学長でもある和歌山子どもの虐待防止協会柳川敏彦事務局長と対談形式で放送を継続しています。森下先生の放送時間帯は下記の通りです。

毎週月・水・金曜日 16:20～16:35

8. 今後の展望

今後の当センターの活動について、考えたことを述べさせていただきます。

(1) 啓発活動の継続

当センターは地域の教育機関や児童福祉関係機関との連携を基盤とした研究活動により、機能していく必要があると考えます。そのためには当センターの存在や役割を常に発信し

ていく必要があります。

実習施設等への訪問や対外的に出向する場合にパンフレットを持参して関係機関に当センターの説明を続けていく必要があると考えています。

（２）特別研究会員との共同研究活動の推進

特別研究会員の申込が増加しており、担当教員との連携でジャーナルへの投稿も多くなりました。特別研究会員にとっては現場の課題を整理研究して発表するメリットがありますが、大学や学生たちにとっても今後関わる関係機関の情報を得ることができるメリットは大きいと思います。

今後、特別研究会員の皆様に専門ゼミナールでのご助言や、授業での特別講師等をお願いすることも実現できれば良いと考えています。

気象警報や新型コロナウイルス感染予防の関係で２回続けてシンポジウムが中止となりました。外部からの影響を受けない形で、特別研究会員の皆様に現場の状況をご報告いただき、学生も参加したシンポジウム企画を実現していきたいとも考えています。

（３）学生を主体に置いた研究実践活動の展開を考える

実習や専門ゼミナールが進められていく中で、教職員の皆様には学生を主体にした活動報告や研究報告をこのジャーナルに発表していただくことも検討していきたいと思っています。